



クレドインターナショナル、 コロナ禍における新しい 価値の提案。 ウェルネス・ビューティの プロフェッショナル達と講演

(株)クレドインターナショナルが、宿泊施設の新しい価値の提案として、12月10日に開催されたホテルマネジメントセミナー in 東京にて、ウェルネス・ビューティのプロフェッショナル3名を招き、パネルディスカッションを行なった。コロナ禍において、これまで以上に健康意識が高まるなかで、(株)グローバルプランニング 代表取締役 大久保裕美氏、慶應義塾大学医学部 特任助教・日本サウナ学会 代表理事 加藤容崇氏、(株)プロラボホールディングス 代表取締役・CEO 佐々木広行氏は、何を考えるのか。宿泊施設がやるべきこと、今後の可能性などについて(株)クレドインターナショナル 代表取締役 白井浩一が聞いた。

100年時代をサポートする最新ウェルネス

(株)グローバルプランニング 代表取締役 大久保裕美氏は、現在メディカルフィットネスプランナーとして施設の立ち上げや再生などのプロデューサーとして活躍しており、今年オープン予定の熱海のパールスターホテルではフィットネスエリアを運営することとなった。昨今、これまでの単なるフィットネスではなく、介護や癒しなどを提供する「メディカルフィットネス」の需要が高まっている。加えてコロナ禍においては「運動と癒し」が特に必要となる。そして今後は「介護・産後ケア」の点でホテルが価値を提供できる可能性が高いと述べた。人生100年時代ということもあり今後はウェルネスエリアの充実は必須といえるだろう。

コロナ渦でも人気サウナの導入事例

慶應義塾大学医学部特任助教／日本サウナ学会代表理事 加藤容崇氏はすい臓癌の専門医師でもあり、何よりも早期発見と予防が大切だという。そこでサウナのような伝統的な健康習慣が、肺炎予防にも効果的だと訴えている。世界最高水準のサウナが多数ある日本だが、サウナの正しい入り方等の教育、啓もう活動が足りていない現状があり、現在加藤氏が代表理事をしている日本サウナ学会では、医学的に正しい入り方やコロナ禍におけるサウナのガイドラインを作り、全国のサウナ施設に知識の対策指導などを行なっている。近年、サウナで「整う」という医学的にも新しい概念が生まれ、富裕層や事業経営者などからも人気が高い。日本の宿泊施設で

は、浴場はあるがサウナがまだないホテル多いが、サウナ人気に伴い、北海道のホテルでは客室内にサウナを導入。連日高稼働を維持しているという。まだまだ伸びしろがあるホテルサウナ。長期的にみれば導入を検討してもいいのではないだろうか。

ファスティングプランが人気の理由

(株)プロラボホールディングス 代表取締役・CEO 佐々木広行氏はファスティング商材をエステサロンやスパ等に販売しており、15000施設、海外10か国に展開している。昨今ホテルの宿泊プランとして、科学的根拠のある安全なファスティングドリンク提供し、単なる断食ではなく、細胞をリセットし、健康のため、免疫を高めるために内蔵を休ませて体の機能を回復させられるプランが、コロナ禍で健康意識の高まりとともに増えてきている。内蔵や腸が休まらない現代社会においては、癒しを提供する宿泊施設との親和性も高く、体をリセットすることを推奨してはいかかだろうか。例えば「朝だけファスティング」。朝食だけファスティングドリンクに変え、お昼は軽く食べる、夜は8時までに終わると、翌日のランチまで約16時間のファスティングが可能となるので導入も比較的簡単だ。今朝食buffetでお悩みの施設も選択の一つになるのではないだろうか？

今後もクレドインターナショナルは、最新のウェルネス・ビューティのプロフェッショナルと連携し、全国ならず全世界に日本のウェルネス・ビューティを広めていきます。